

# X-MON BOX IPアドレス設定方法(RHEL/Rocky Linux 8系)

1、x-monサーバにコンソールでログインし、rootユーザにスイッチします。

2、変更するネットワークインターフェースの名称を確認します。

以下のコマンドを発行してください。

# ip a

```
[root@X-MON ~]# ip a
1: lo: <LOOPBACK,UP,LOWER_UP> mtu 65536 qdisc noqueue state UNKNOWN group default qlen 1000
    link/loopback 00:00:00:00:00:00 brd 00:00:00:00:00:00
    inet 127.0.0.1/8 scope host lo
        valid_lft forever preferred_lft forever
    inet6 ::1/128 scope host
        valid_lft forever preferred_lft forever
2: enp4s0: <BROADCAST,MULTICAST,UP,LOWER_UP> mtu 1500 qdisc mq state UP group default qlen 1000
    link/ether d0:50:99:c2:8c:63 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
    inet 192.168.10.50/24 brd 192.168.10.255 scope global noprefixroute dynamic enp4s0
        valid_lft 50178sec preferred_lft 50178sec
    inet6 fe80::d250:99ff:fec2:8c63/64 scope link noprefixroute
        valid_lft forever preferred_lft forever
3: enp5s0: <NO-CARRIER,BROADCAST,MULTICAST,UP> mtu 1500 qdisc mq state DOWN group default qlen 1000
    link/ether d0:50:99:c2:8c:64 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
```

インターフェースのタイプが「link/ether」、状態が「state UP」のものを利用します。

後に利用しますので、インターフェース名称を控えておいてください。

この出力例では、「enp4s0」となります。

3、ネットワーク設定ファイルを編集します。

# vi /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-<インターフェース名称>

<インターフェース名称> は、先ほど控えたインターフェース名称で置き換えてください。

## ・初期設定シートに「DHCP」と記載されているお客様

初期の設定ファイルは以下のようになっています(一部抜粋)。

```
DEVICE=<インターフェース名称>
BOOTPROTO=dhcp
ONBOOT=yes
```

## ・初期設定シートに固定のIPアドレスが記載されているお客様

黄色の箇所がお客様指定のものとなっております(一部抜粋)。

```
DEVICE=<インターフェース名称>
BOOTPROTO=none
IPADDR=192.168.10.50
GATEWAY=192.168.10.1
PREFIX=24
ONBOOT=yes
```

各項目は以下を意味します。

DEVICE	インターフェース名称
BOOTPROTO	IPアドレス指定方法 DHCPで動的にIPを割り当てる場合は「dhcp」と指定します。 固定のIPを割り当てる場合は「none」と指定します。
ONBOOT	起動時の自動起動の有無 「yes」を指定すると、サーバ起動時にインターフェースが自動で起動します。

以下は初期設定シートに固定のIPアドレスが記載されているお客様のみ記載されている項目です。

IPADDR	IPアドレスを指定
PREFIX	IPアドレスのプレフィックスを指定
GATEWAY	デフォルトゲートウェイアドレスを指定

IPアドレス、プレフィックス、デフォルトゲートウェイアドレス(水色の箇所)を任意の値に変更します。

noneの箇所がdhcpとなっている場合は、noneに書き換えてください。

例

```
DEVICE=<インターフェース名称>
BOOTPROTO=none
IPADDR=192.168.10.51
GATEWAY=192.168.10.1
PREFIX=24
ONBOOT=yes
```

下記のコマンドで設定を反映させます。

```
# nmcli con down <インターフェース名称>
```

```
# nmcli con load <インターフェース名称>
```

```
# nmcli con up <インターフェース名称>
```

最後に次のように表示され、エラーが表示されなければ設定反映コマンドの実行は完了です。

```
Connection '<インターフェース名称>' successfully activated
```

4、下記のコマンドを発行し、設定が正しく反映されていることを確認します。

```
# ip address show <インターフェース名称>
```

```
[root@X-MON ~]# ip address show enp4s0
2: enp4s0: <BROADCAST,MULTICAST,UP,LOWER_UP> mtu 1500 qdisc mq state UP group default qlen 1000
    link/ether d0:50:99:c2:8c:63 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
    inet 192.168.10.51/24 brd 192.168.10.255 scope global noprefixroute dynamic enp4s0
        valid_lft 48993sec preferred_lft 48993sec
    inet6 fe80::d250:99ff:fec2:8c63/64 scope link noprefixroute
        valid_lft forever preferred_lft forever
```

3行目の「inet ○○○/○○」の表示が、IPADDR、PREFIXで指定した値になっていることを確認します。

以上で、IPアドレスの設定は完了です。

WebブラウザでX-MONの管理画面を表示するには、<http://<設定したIPアドレス>> を開きます。